

No. 474【2021年9月24日配信】

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産（遺跡） その1（担当：児玉）

こんにちは。文化財課の児玉です。7月27日に世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の17遺跡は、縄文時代を彷彿とさせる植生や地形など豊かな自然環境、良好な景観が保全されている遺跡が数多くあり、周辺のガイダンス施設等では、発掘調査成果のパネルに加え、土器や土偶などの出土品が数多く展示されています。

青森県には8つの遺跡があり、今回はそのうち縄文草創期～中期に属する4遺跡について紹介したいと思います。

○史跡大平山元遺跡（青森県外ヶ浜町）

【年代】紀元前13,000年頃（約15,000年前）

遊動から定住へと生活が変化したことを示す縄文時代開始直後の縄文草創期の遺跡。旧石器時代の特徴をもつ石器群とともに、土器と石^{せきぞく}鏃が出土しました。土器は、15,000年以上前のもので、現在のところ北東アジア最古となっています。

○史跡田小屋野貝塚（青森県つがる市）

【年代】紀元前4,000年～紀元前2,000年（約6,000～4,000年前）

海進期に形成された古十三湖に面した貝塚を伴う縄文前期の集落跡。貝塚からはヤマトシジミを主体に、クジラ・イルカの骨を加工した骨角器、ベンケイガイ製貝輪の未製品も多数出土し、内湾地域における生業の様子を伝えています。

○史跡二ツ森貝塚（青森県七戸町）

【年代】紀元前3,500年～紀元前2,000年（約5,500～4,000年前）

太平洋に続く小川原湖に面した段丘上に立地し、大規模な貝塚を伴う縄文中期の集落跡。貝塚では、下層に海水性、上層に汽水性の貝殻が堆積することが確認され、海進・海退による環境変化に適応した人々の暮らしを伝えています。

○特別史跡三内丸山遺跡（青森県青森市）

【年代】紀元前3,900年～紀元前2,200年（約5,900～4,200年前）

竪穴建物、掘立柱建物、墓、貯蔵穴、祭祀場である盛土や捨て場などからなる縄文前期～中期の大規模な拠点集落。膨大な土器や石器、日本最多の2000点を超える土偶、動植物遺体などが出土し、当時の生業や祭祀・儀礼を具体的に伝えています。



大平山元遺跡から出土した土器片
（出典：JOMON ARCHIVES
〈外ヶ浜町教育委員会〉）

青森県内では、10月31日まで「スマホでかんたん！縄文おでかけスタンプラリー」が行われており、GPS機能付きのスマートフォンを使用して青森県内の8つの縄文遺跡と関連施設を巡って、スタンプを集めると県産品などが抽選でもらえます。これを機会に世界遺産となった各遺跡に足を延ばしてみるのもいいかもしれません。

※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、休館等となっている場合がありますので、ご注意ください。